

台風による強風への安全チェックリスト

台風は循環する風と激しい降雨を伴う大きい規模の気象現象で、多くは夏の終わりから秋にかけて発生し、各地で強風、豪雨、高潮、洪水などによる被害をもたらします。台風による危険な時間は数時間から一日に及ぶことがあります。台風の襲来はある程度予測できるので、準備をしっかり行うことが重要です。中でも、強風は家の屋根を吹き飛ばし、窓ガラスを割り、ときには家を倒壊させることがあります。また、強風は樹木を引き倒し、多くの飛散物を発生させるなどの危険をもたらします。以下は、特に強風への安全に着目したチェックリストです。地域によっては、洪水・高潮・土砂崩れへの備えも重要です。

日ごろの準備

- ❑ 各地域の台風のシーズンに入る前に、弱った樹木の枝を切り取り、屋根の樋や排水溝を掃除しておく。
- ❑ 家族で防災用品をチェックし、適宜、補充や入れ替えを行い、リュックサックに入れておく。
- ❑ 指定された避難場所を家族全員で確認し、避難ルートを相談しておく。
- ❑ 高齢者や要援護者の避難が必要な場合には、複数の支援者と話し合っておく。
- ❑ 災害の規模が大きい時には、家族間で連絡が取れないこともあるので、県外の親戚や知人を連絡の拠点として決めておく。



強風注意報が発令されたとき

- ❑ 強風注意報発令時は「台風の危険が近づいています！」という意味。いつでも避難できるように準備する。高齢者や要介護者の避難は早めに行う。
- ❑ 屋外の飛散の危険があるものを家の中に入れ、雨戸やシャッターなどを閉め、防災用品を手元に置き、強風に備える。
- ❑ 停電に備えてラジオと懐中電灯をすぐ使えるように準備する。

避難勧告と避難指示

自治体が出す避難勧告と避難指示は強制ではないが、できるだけ従うことが望ましい。

暴風警報が発令されたとき

- ❑ 暴風警報発令時は「台風の危険の中にいます！」という意味。台風の進路や気象情報を確認し、身の安全を確保する。特別暴風警報が発令された場合、避難はかえって危険な場合もあるので、室内の『安全な場所』に退避する。
- ❑ 断水に備えて、浴槽に水を溜めたり、容器に水を入れておく。
- ❑ 万一、雨漏りがしたり窓ガラスが割れても、修理のために屋外に出ることは危険。

台風の通過後にすること

- ❑ 台風の目が通過すると一時的に風がおさまり、台風が通過したと勘違いすることがある。気象情報を聞き、吹き返しの風に注意して、安全が確認されてから行動する。特に避難先から帰宅する場合の安全確認は慎重に行う。
- ❑ 強風が収まっても、洪水の危険性がある。増水した河川や水路は危険なので近づかない。
- ❑ 家族が離れている時には、家族全員の安否を確認する。電話が混み合っている場合は、あらかじめ決めておいた県外の連絡者に電話する。
- ❑ 垂れ下がった電線に近寄らず、すぐに電力会社に電話する。
- ❑ 傷んだ家の片づけをする時には、軍手、長ズボン、長袖シャツと頑丈な靴を身に付け、ケガに注意する。
- ❑ 保険請求のために、被害を受けた建物と家財の両方の写真を撮影しておく。
- ❑ 停電した場合は、火災の恐れがあるためロウソクを用いず、懐中電灯を用いることが望ましい。
- ❑ 飼っている動物については、日常よりもしっかりと管理下に置く。

防災用品

救急キット、処方薬、水、食料、電池式ラジオ、懐中電灯、予備の電池、防御服、雨合羽、寝袋、家族のための用品（乳児、高齢者または要介護者用）、電気会社・ガス会社・避難所などの連絡先を書いたメモ